

## 令和 3 年度 (2021) 共同利用研究・研究成果報告書

研究課題名	和文：第 38 回宇宙線国際会議に向けた組織委員会による準備活動 英文：Preparatory Activities by the Local Organizing Committee for the 38th International Cosmic Ray Conference
研究代表者	萩尾彰一（大阪市立大学大学院理学研究科・教授）
参加研究者	梶田隆章（東京大学宇宙線研究所・所長）、 神田展行（大阪市立大学大学院理学研究科・教授）、 伊藤好孝（名古屋大学宇宙地球環境研究所・教授）、 瀧田正人（東京大学宇宙線研究所・教授）、 吉越貴紀（東京大学宇宙線研究所・准教授）、 奥村公宏（東京大学宇宙線研究所・准教授）、 さこ隆志（東京大学宇宙線研究所・准教授） 窪秀利（京都大学大学院理学研究科・准教授）、 常定芳基（大阪市立大学大学院理学研究科・准教授）、 身内賢太郎（神戸大学大学院理学研究科・准教授）、 多米田裕一郎（大阪電気通信大学工学部・講師）、 毛受弘彰（名古屋大学宇宙地球環境研究所・助教）、 奥村暁（名古屋大学宇宙地球環境研究所、素粒子宇宙起源研究所・講師）、 池田一得（東京大学宇宙線研究所、神岡宇宙素粒子研究施設・助教）、 高田淳史（京都大学大学院理学研究科・助教）、 野田浩司（東京大学宇宙線研究所・准教授）、 齋藤隆之（東京大学宇宙線研究所・助教）、 三宅美沙（名古屋大学宇宙地球環境研究所・准教授）、 大石理子（東京大学宇宙線研究所・助教）、 石原安野（千葉大学グローバルプロミネント研究基幹、大学院理学研究院・教授）、 都丸隆行（国立天文台重力波プロジェクト・プロジェクト長・教授） 大平豊（東京大学大学院理学系研究科・助教）、 福家英之（宇宙航空研究開発機構宇宙科学研究所・准教授）、 川田和正（東京大学宇宙線研究所・助教）、 井上芳幸（大阪大学大学院理学研究科・准教授）

## 研究成果概要

国際純粋・応用物理学連合（International Union of Pure and Applied Physics;略称 IUPAP）の主催する「宇宙線国際会議（International Cosmic Ray Conference）」は、1947年の第1回が開催され、その後も2年ごとに世界の宇宙線物理学関連分野の研究者が一同に集まり、宇宙線物理学、ニュートリノ物理学、ガンマ線天文学、暗黒物質、およびこれらの分野の検出器技術に関わる研究成果を発表する世界で最も権威ある国際会議として発展してきた。そして、2003年のつくば市での開催以来20年ぶりに、2023年に第38回目の本国際会議を日本で IUPAP と東京大学宇宙線研究所（ICRR）の共同主催と開催することになった。

2021年度の主な活動は以下のとおりである。

- 旅行代理店選定
- 共催・後援など決定（共同主催：日本学術会議、日本物理学会、東京大学宇宙線研究所、名古屋大学、大阪公立大学、大阪大学、後援：IUPAP、日本天文学会、応用物理学会、高エネルギー加速器研究機構、宇宙航空研究開発機構、地球電磁気地球惑星圏学会、協力：名古屋観光コンベンションビューロー、日本政府観光局）
- ロゴマーク、バナー、web ページデザイン決定
- Web ページ開設
- プログラム、会場使用計画策定開始
- プロシーディングス会社決定
- IUPAP C4 会議に参加、準備状況説明
- ICRC2021 LOC との会議・情報収集
- 完全対面・完全オンラインそれぞれを想定し、予算編成
- 一般講演会の講演者、スケジュールなど決定
- JNTO による寄付支援に申請
- 日本学術会議への共同主催申請、ヒアリング
- 開催地を名古屋（名古屋大学）に変更（会期直前まで対面開催を目指すため）



## 2022年度以降の計画

2022年度には、さらに詳細な計画を策定して、準備を進めていく。

2022年度末には、アブストラクト登録は締め切られ査読が開始される。会場使用計画なども固まり、最終的な国際会議実施計画が策定される予定である。